

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

無理なく継続できる交流を

6月15日に神戸市の魚崎町協議会の粉谷会長さんと石畠さんにお会いしてきました。江府町と魚崎町は、昭和59年から様々な交流を行ってきましたが、今後の交流のあり方についての意見交換をするための訪問でした。

平成5年にカサラファームがオープンした際に、魚崎町協議会が20aを契約し、以来収穫祭に合わせて来町されてきたこと。平成15年に魚崎町協議会結成30周年式典で江府町の神楽や傘踊りが披露されたこと。平成18年に貝田大飯店いフェスティバルに参加されたこと。その後、魚崎町夏祭りや江尾十七夜にお互いに参加したこと等々。楽しくあった思い出を、懐かしくお話されました。中でも、平成7年に阪神淡路大震災が発生した際に、江府町から水、毛布、おにぎり等の支援物資が5台のトラックで届けられたことは深く印



町長・議会代表ら被災地へ
まちとむらの交流を続ける
魚崎の皆さんを激励
(魚崎小学校前)

▲町報こうふ1995年2月号
(一番右が粉谷会長)

ることをお伝えしました。今後の交流として、魚崎町夏祭りが10回目の節目となる時に、江府町から魚崎町へ、江府町役場の新庁舎が完成した後に、魚崎町から江府町にそれぞれ訪問する企画をしてはどうかというお話ができました。平成25年には災害協定も締結している魚崎町との交流を今後もしっかりと継続していきたいと思えます。

象に残っておられるのを感じました。この時の話は当時の町報こうふに詳しく掲載されています(1995・2月号)。その一部をコピーして保管されていましたので、江府町のホームページから全てを閲覧することができ

「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム活動報告

はじめめしてうっとうしい梅雨。が、視線を少し上げて雨に輝く山々を眺めてみると、緑っこんなに種類があるのだなーと感じることが出来ます。災害につながるような集中豪雨は困りものですが、「雨もまたよし」です。

さて、7月28日(土)13時30分から江府町防災・情報センターにて「福祉とまちづくり」をテーマにした講演会(仮)を開催します。今回は「では、なぜ今、このテーマで？」ということについてお話したいと思えます。

みなさんは、一〇年先、二〇年先にどんな江府町で、どんなふうに住み慣れた場所で、誰もが安心して暮らし続けられるために、さらに心豊かで幸せな生活のために、どうしたらいいと思いますか？プロジェクト一年目のワークシヨップ「みんなの困りごとをみんなで考えよう」や、昨年からは始まった『集落総合点検』、その後の住民アンケートでは、集落のよいところ、夢や希望、逆に不便さや住みにくさなど、町のみなさんの多くの声をお聞きし、次は、そのために取り組めることは何かを考える

段階に入っていきます。

一方、福祉の分野でも、今までのように「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながること、一人一人の暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会。『地域共生社会』の実現に向け、「地域づくり」が強調されています。

いづれも、さまざまな課題に直面している地域そのものを、そこに住む人たちから元気にしていくという考え方で、『協働のまちづくり』に通ずるものがあります。

今、江府町は、新庁舎建設という大事業と共に、転換期を迎えています。今や全国共通の課題となった人口減少や超高齢化にいち早く直面したことを、「新しい江府町」をデザインしていくための大きなチャンスととらえ、みんなが一体となつて進んで行くときです。今回の講演会は、介護保険における生活支援体制整備からのお話ですが、高齢者だけの問題でなく、みんなが「自分ごと」として参加していただけるといいなと思えます。

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。